輸血・細胞治療部

1　構 成 員

	平成22年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人　（　1人）
助教（うち病院籍）	0人　（　0人）
助手（うち病院籍）	0人　（　0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人　（　0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合　　計	1人

2　教員の異動状況

中辻　理子（講師）（S61. 7. 1～現職）

3　研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編　（　0編）
そのインパクトファクターの合計	不明
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編　（　0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編　（　0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編　（　0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakatsuji T: Clinical analyses of 75 parathyroidectomy（PTE）patients and 69 adrenalectomy（AE）patients including saliva-type amylase-secreting secondary parathyroid hyper-

plasia (SPTH) and insulinoma with adrenal adenoma(AA)showing primary aldosteronism. Comp Clin Pathol 18, 269-278, 2009.

2. Nakatsuji T: Effects of thymectomy on autoimmunity, thrombotic embolic events and ectopic thymoma. Archives of Hellenic Medicine 26, 656-662, 2009.

インパクトファクターの小計　［不明］

4　特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件　（　0万円）
(2) 厚生労働科学研究費	0件　（　0万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件　（　0万円）
(4) 財団助成金	0件　（　0万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件　（　0万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件　（　0万円）

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	1件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

Investigation into the blood transfusion state of 73 Japanese with urinary bladder carcinoma (Ca), XXth Regional Congress of the ISBT, Asia, 2009 November 14 to 18, Japan

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

第57回日本輸血・細胞治療学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本輸血・細胞治療学会　（評議員）

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9　共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10　産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 副甲状腺，副腎摘出患者の臨床的分析を行った。75%の副甲状腺摘出患者は慢性腎不全からの二次性副甲状腺腫大で，25%は原発性副甲状腺腫大により，副甲状腺が摘出されていた。副甲状腺癌の患者はいなかった。副腎摘出患者では，33%がクッシング症候群，43%は原発性アルドステロン症、10%が褐色細胞癌，6 %が悪性副腎皮質癌であった。肝癌転移も69例中 1 例にみられた。30例の副腎腺種，原発性アルドステロン症の内5例にインスリノーマが合併していた。糖尿病と副腎皮質障害との関連性について解析した。

2. 胸腺腫患者の胸腺摘出効果を調査した。41人の胸腺摘出患者の内，26人は重症筋無力症（MG）の診断を得，4 人は手術時既に胸腺癌であった。胸腺摘出時，良性胸腺腫と判断された1例の内，胸腺摘出後6年で異所性肺，胸膜での胸腺癌が明らかになった。アセチールコリン受容体抗体（AChR Ab）は88%のMG患者で陽性を示した。胸腺摘出 1 カ月後より，AChR Abの抗体価低下と共に、自己免疫症状の改善を認めた。血栓形成は胸腺摘出後も発生したが，血栓梗塞による臨床症状は比較的軽度であった。胸腺摘出により，血栓梗塞障害も軽症化された。

各種癌の臨床的特殊性について分析過程である。